

十月三十一日

十一時研究室。十四時毎日新聞。十七時議員会館の予定。二十九日、北京の李祖原より連絡入り、北京モルガンセンターは順調に進んでいるとの事。こちらもピッチを早めた

十時四〇分研究室ミーティング。十三時十分迄。十四時竹橋毎日新聞。電通と会う。十五時三〇分修了。一Fのソバ屋で遅い昼食をとり、十六時半永田町議員会館。議員会館には沢山花が届けられており、アア、内閣の組閣が終わったんだなと知る。ひろしまハウスの件で議員さんに相談。十八時迄。政治家に頼み事をするのは仲々むずかしいものだ。渋谷を経て十九時過、世田谷村に戻る。夜、北京メディアアウォール、他のスケッチを続けた。

十一月一日

十一月はたそがれの国。はるか昔、悠久に近い大昔、子供の頃読んだレイ・ブラッドベリの短編集のタイトルだ。日本風に言えば幽明界を同じくするかな。

北京の仕事にフォーカスが視え始めた。それで朝、山口勝弘さんに電話して会いに行く事にした。イマジナリウムの概念設定はもう良い。やっぱり山口さんも私も何か遠い標的があると考えが膨らむタイプなのだ。その標的の是非を問うのは上手じゃない。

「超ジジイとオジさんの夢」と題した仕事を作ってみよう。

十四時多摩プラーザの山口勝弘さんと会う。リハビリのマッサージの日だったらしく、時間があんまりないので色んな話しをこ

った煮にして話す。北京の件、プラネタリウムの件他。絵本プロジェクトについて大きな関心を示された。これは早速すすめてみる。まず身体の事から絵にしていたくのが良いのかな。スーパージジイをドンキホーテにボンクラオジンをサンチョパンサに仕立てた筋書きはいかがであるうか。スーパージジイの決して閉じ込められる事の無い想像力を、ドンキホーテの槍の如くに描ければ面白い。

十一月二日

つくづく思うのだが、近頃日々の動きの半径が小さくなった。しかも、直線的になった。他人のそれは知らぬが、我ながらそう思う。しかし、それ以前の事を考えると、あきれ返る程に無駄な動きばかりしていた。あの惘然たる過労な無駄が少なくなったと考えるほうが健全なんだろう。

十一時前研究室。

渡辺と打合せ。その後雑打合せ。十三時半TVディレクター矢野氏打合せ。錯綜としたいくつかの物件の話をした。来週一つの物件現場で打合せとなる。久し振りにあつたので、沢山話し過ぎて矢野氏には迷惑だったと思うが、仕方ない。十六時エクスナレッジ長島氏相談。その後、幾つかの雑打合せ。十九時前、近江屋でインターネット若松社長と打合せ。氏は明日からモスクワとの事。二十一時半迄。二十二時二〇分世田谷村に戻る。遅過ぎる夕食を取る。